

授業改善の手引 小学校第5学年算数

1 調査結果

(1) 分布状況



平均正答率は、51.6%で昨年度より上昇しています。しかし、全体として下位層の集団が多い傾向にあります。低・中位層の学習内容の定着状況を確実に把握し、授業改善を行いながら、中央値を高め、中・上位層の集団への指導につなげていくことが求められます。

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率(%)はR6	観点等	正答率(%)はR6
数と計算(12問)	49.8% (53.8%)	知識・技能(13問)	53.5% (61.2%)
図形(5問)	60.4% (55.2%)	思考・判断・表現(10問)	48.6% (41.5%)
変化と関係(3問)	41.2% (53.9%)		
データの活用(3問)	52.8% (50.4%)		

令和6年度と比較し、観点別では「思考・判断・表現」が7ポイント程度上回っています。一方で、「知識・技能」は7.7ポイント下回っています。領域別では「数と計算」が4ポイント、「変化と関係」が12.7ポイント下回っています。「数と計算」領域では、小数倍の場面の数量関係の理解や、2つのものの基準量と比較量から割合を求めて説明することに課題があることから、比較量を求めるにはかけ算、基準量や倍を求めるにはわり算を用いるという個別の知識として捉えるのではなく、これらを相互に関連付けて、数量の関係を捉えられるようにする指導の充実が急務です。また、変化と関係では、ともなって変わる2つの数量の関係を理解し、求めたい数量の大きさの求め方を説明することに課題があることから、表で表された数量の意味を読み取り、変化や対応の規則性などの関係を見付け、求めるために用いるものと用い方を表現する指導の充実が必要です。

(3) 結果概要

ア [数と計算]について (授業実践アイディア例 参照)

●領域正答率は49.8% (R6:53.8%)でした。問題解決の過程や結果を振り返って、得られた結果を捉え直したり、新たな問題を見いだしたりして、統合的・発展的に考察を進めていくこと、概念的理解を問い合わせ直し、児童が自分なりの理解の過程をまとめ直す時間を大切にする授業改善が求められます。

イ [図形]について

○領域正答率は60.4% (R6:55.2%)でした。「4年 角の大きさ」「5年 図形の角」の学びをつなげた指導を継続し、わかる角度を活用してわからない角度を計算で求める学習を大切にする必要があります。

ウ [変化と関係]について (授業実践アイディア例 参照)

●領域正答率は41.2% (R6:53.9%)でした。図や表、グラフで表した数量関係を活用して説明する力に課題が見られます。そのためには表で表された数量の意味を読み取り、変化や対応の規則性などの関係を見付けることができるよう指導する必要があります。

エ [データの活用]について

○領域正答率は52.8% (R6:50.4%)でした。二次元表の中の数値が何を表しているかが分かれば、問題を解決することができることが調査結果から見えてきました。アンケート結果を元に数学化を図る過程、児童の発想を生かしながら表をつくる過程で、数値が表す意味を説明する活動を大切にする必要があります。

(4) 経年比較問題等の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR6県学調との比較により増減を表す)

通し番号	正答率	比較(R6)	調査のねらい
●6	30.7%	△4.4	2つのものの基準量と比較量から割合を求めて、ねだんがより高くなったパンはどちらかを説明することができる。
◇9	60.4%	△15.2	四捨五入した場合の見積もりの仕方を理解している。
●12	27.3%	▼6.2	小数の除法の式の意味を理解している。
○16	73.3%	△62.1	二次元表にあてはまる数を式に表すことができる。
○18	71.5%	△12.5	角度を求める式に合った、三角定規を組み合わせた形を選んでいる。
●21	27.4%	▼2.3	ともなって変わる2つの数量の関係を理解し、求めたい数量の大きさの求め方を説明することができる。
◇23	40.7%	△23.0	2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる。

小問正答グラフ